

令和6年度定期総会 令和6年度第1回研修会

令和6年7月27日（土）西南女学院大学にて定期総会及び第1回研修会が行われました。

定期総会では会員の皆さまに出席いただき昨年度の事業報告、収支決算報告、今年度の事業報告を執り行いました。

研修会では特定非営利活動法人 抱樸 中間あやみ先生をお招きし「重層的支援体制整備事業-北九州市における取り組み-」をテーマにお話いただきました。



総会の様子



研修会の様子



フリートークの様子

研修会の感想

- ・フリートークも含め、改めて横のつながり(包括的な関わり)をしていくために、直接お会いして連携をとっていくことの大切さを学んだ。現場で働いている精神保健福祉士の方の支援についての考え方や支援するうえでの悩みなどを聞いて学びになった。
- ・最終的には全てが支援の対象になるというのが印象的だった。フリートークでは日頃困っている事、対応等について情報共有ができた。
- ・専門職であっても日頃から立ち話などを通して関係を構築し「助けて」といえる相手や関係を形成していくことも必要であることも学ぶことが出来た。フリートークでは、自身の職場や立場によって仕事内容が違うため、悩んでいる内容も異なっており、これは価値観の違いから悩みの内容の違いが生じていることがわかった。支援者と利用者という立場の違いにおいても、価値観の違いがあり、専門職種でも価値観の違いは生じる。支援の中でも職場の中でも、まずは相手の立場だったらと価値観をなるべく合わせて、話し合いを行ったりしていくことが必要だと考えた。
- ・中間先生の講義は地域共生社会の成り立ちや制度的組み立てと三つの柱について、改めて、整理できてよかった。専門分野における縦割り、横断的対応のメリットデメリットと地域性に応じたメリハリの効いた制度建てつけも分かり、地方自治体の行政が理解していないと進まないことと住民やその地域の福祉に関わるコーディネートする方の意識だと感じました。そのためには地域の中での重層的支援の専門性とその実践かの育成も必要と感じました。グループワークについては、それぞれの業界の先輩から、素朴な連携に関する業務についての工夫なども話が伺えてよかった。

今後取り上げてほしいテーマ

メンタルヘルス 愛着障害 医療ケア児 精神保健福祉士の日。色々な領域で働く精神保健福祉士が毎日どう働いているのか知りたい。